

民法

第七



414  
A2651  
7



民法第七卷目錄

契約篇四

借貸ノ契約總規則

物件ノ借貸

家屋及土地ノ借貸ノ契約ニ通シ用ニ

ハキ規則

家屋ノ借貸ニ付別段ノ規則

土地ノ借貸ニ付別段ノ規則

大正十一年四月  
侯爵邸寄贈

人カノ債貸

雇人雇工ノ事

水陸ノ運送ヲ為ス者ヲ雇フ事

請員ノ契約

獸類ノ貸借

通常ノ貸借

雙方互ニ獸類ノ數ノ半ヲ出合スル貸借

土地ノ所有者其土地ヲ借受ル者ニ獸類

ヲ貸與フル契約

土地ノ所有者ト其地ノ利益ヲ分ツヘキ

約束ニテ土地ヲ借受ル者ニ其所有

者ヨリ獸類ヲ貸與フル契約

通常不當ニ獸類ノ貸借ト稱スル契約

會社ノ契約

總規則

會社ノ種類

大正官

諸般ノ財産ニ付テノ會社

別段定メタル財産ニ付テノ會社

社中各人ノ間ニ互ニ行フヘキ義務

會社中ノ者會社外ノ人ニ對シテ行フヘ

キ義務

會社ノ契約終ルヘキ方法

貿易會社ノ規則

貸借

耗盡セサル物ノ貸借

借主ノ義務

貸主ノ義務

耗盡スヘキ物ノ貸借

貸主ノ義務

借主ノ義務

息銀アル貸借

大文

民法第七卷

契約篇四

借貸ノ契約

總規則

第七百四十二條 借貸ノ契約ニ物件ト人カノ

二種アリ

第七百四十三條 物件ノ借貸トハ一方ノ者也  
ノ一方ノ者ヨリ 債銀ヲ得テ定期ノ時間物件

一七九

一七八



ヲ貸與フルノ契約ヲ云フ

一七十一

第七百四十四條 人カノ債貸トハ一方ノ者他

ノ一方ノ者ト協議ノ上定メタル債銀ヲ得テ

他ノ一方ノ為ノ事ヲ為ス可キ契約ヲ云フ

一七二

第七百四十五條 此二種ノ債貸ヲ分ツテ更ニ

數種トス

第一 家屋及ヒ家具等ノ債貸

第二 土地ノ債貸

第三 勞動ノ債貸

第四 貸主ト借主トニ利益ヲ分ツ獸類ノ

債貸

第五 雇主雇工雙方ノ定メタル價ヲ以テ

物ヲ造ル可キ請負ノ契約ヲ為シタ

ル時其用フル所ノ諸材ヲ其雇主ヨ

リ備辦スルニ於テハ之ヲ債貸ノ契

約ナリトス

大文

一七二二

第七百四十六條 官ニ為スル財産部曲中ノ財産公ケノ建造物ニ屬スル財産ノ貸借ノ契約ハ別段ノ規則ニ循フ可シ

物件ノ貸貸

一七二三

第七百四十七條 何種類ニ限ラス動産又ハ不動産ヲ貸貸スルコトヲ得可シ

家屋及ヒ土地ノ貸貸ノ契約ニ通シ用フ可キ規則

一七二四

第七百四十八條 何人ニ限ラス書面又ハ口上ヲ以テ貸貸ヲ為コトヲ得可シ

一七二五

第七百四十九條 證書ナキ貸貸ヲ其契約ノ如ク執行ヒ始メサル中ニ貸主又ハ借主ノ一方ニテ其貸貸ノ契約ヲ為シタルコトヲ述レ時ハ證人ヲ以テ其契約ノ證ヲ立ツ可カラス

一七二六

第七百五十條 前條ノ契約ヲ既ニ執行ヒ始メタル後ハ債銀ニ付キ争ノ生シタル時其債

大正

銀ノ受取書ヲラサルニ於テハ評價人ヲシテ  
評價ヲ為サシムルヲ得可シ

第七百五十一條 借主ハ已レノ債借リシタル  
物件ヲ更ニ他人ニ貸與ヘ又ハ其債借リノ契  
約ヲ人ニ譲リ渡スヲ得可シ但シ貸主此等  
ノ事ヲ特ニ禁シタル時ハ格別ナリトス

第七百五十二條 貸主ハ別段ノ約定ナキ時モ  
雖モ賃貸ノ契約ノ本義ニ因テ左ノ三件ヲ為

ス可キノ義務アリ

第一 賃貸ス可キ物件ヲ借リ主ニ引渡ス  
事

第二 賃貸シタル物件ヲ其貸與ヘタル日  
的ニ用ヒ得可キ方法ニ修繕スル事

第三 物件ヲ賃貸シタル時間借リ主ノ之  
ヲ用フルニ故障ナカラシムル事

第七百五十三條 貸主ハ總テ其貸與ヲ可キ物



件ノ修理ヲ整ヘテ之ヲ引渡ス可シ

貸主ハ其物件ヲ賃貸シタル時間總テ必要ナ

レ修理ヲ為ス可シ但シ借リ主ノ為ス可キ小

修理ハ格別ナリトス 第七百五十四條見合セ

第七百五十四條 物件ヲ賃貸シタル時間ニ意

外ノ事ニ因リ其物件ノ全ク滅尽シタル時ハ

別段訴ヘ出スニ及ハスシテ賃貸ノ契約ヲ取

消ス可シ

若シ又其物件ノ一部ノミ滅尽シタル時ハ借

リ主其時ノ景状ニ従フテ其賃銀ヲ減シ又ハ

賃貸ス契約ヲ取消ヤントスル訴ヲ為スト自

由ナリトス

此二箇ノ場合ニ於テハ一方ヨリ他ノ一方ニ

償ヲ為スニ及ハス

第七百五十五條 貸主ハ物件ヲ賃貸シタル時

間其物ノ形状ヲ變更スルヲ得ス

第七百五十六條

物件ノ借貸シタル時間急ニ

其物件ヲ修理スルノ必要トナルニ至リ借  
貸ノ期限ノ終ル迄其修理ヲ遅延スルヲ得サ  
ル時ハ借主ノ為ノ如何ニ不便ヲ生シ且其修  
理ノ時間借主ヲシテ其物件ノ一部ヲ用フル  
不能ハサラシムルト雖トモ借主之ヲ耐忍セ  
サルヲ得ス

然レ其修理ヲ為ス時間一ヶ月以上ナル時ハ

其時間ノ長短ト借主ノ借借シタル物件中其  
用フルヲ得サル部分ノ多少トニ准シテ其  
貸銀ヲ減ス可シ

家屋ノ修理ニ因リ借主及ヒ其家族ノ住居ニ  
必要ナル部分ヲ全ク住居ス可カラサルニ至  
ラシムル時ハ借主借借ノ契約ヲ取消スヲ得  
得可シ

第七百五十七條

借主其借借シタル物件ヲ

用フルニ付キ他人ヨリ故障ヲ受ケルト雖  
其故障ヲ為ス者其物件ヲ已レニ得可キ權  
ト述ヘサル時ハ貸主其事ニ付キ借主ニ對  
シテ其責ニ任スルニ及ハス但シ此場合ニ於  
テハ借主自己ノ名目ヲ以テ其故障者ニ對シ  
訴訟ヲ為スノ權アリ

第七百五十八條 若シ又賃借リシタル土地又  
ハ家屋ノ時有ノ權ニ付キ借主他人ヨリ訴訟

ヲ受ケ之ヲ用フルニ故障ノ生シタル時其事  
ヲ貸主ニ報知シタル上其故障ニ准シテ債銀  
ヲ減スルノ訴ヲ為スヲ得可シ

第七百五十九條 若シ故障ヲ為シタル者借主ノ  
借受ケタル物件ヲ已レニ得可キノ權アリト  
述フル時又ハ借主他人ヨリ其物件ノ全部又  
ハ一部ヲ抛棄ス可キノ訴ヲ受ケ又ハ其義務  
ヲ行フ可キノ訴ヲ受テ白カラ裁判所ニ呼出

サレタル時ハ借主ヨリ其保證人トシテ貸主ノ姓名ヲ申述ヘ之ヲ裁判所ニ呼出ス可シ但シ借主其訴訟ヲ免カント欲スル時ハ之ヲ免カル、ヲ得可シ

第七百六十條

借主ノ主タル義務ニ箇アリ

第一 其借受ケタル物件ヲ毀壞損敗セサ

ルニ着意シテ之ヲ用ヒ且借借ノ契

約ヲ以テ定メタル用法ニ從フテ之

ヲ用フ可キ事

第二 預定ノ期限ニ貸銀ヲ拂フ可キ事

第七百六十一條 借主其借受ケタル物件ヲ預

定シタルニ非サル用法ニ用ヒ又ハ貸主ノ為

ノ損害ヲ生スルヲアル可キ用法ニ用フル時

ハ貸主其時ノ景状ニ從ヒ借貸ノ契約ヲ取消

スヲ得可シ

第七百六十二條 家屋ニハ土地ノ模様書ヲ記

シテ貸借ヲ為シタル時ハ借主其家屋又ハ土地ヲ其模様書ノ如ク為シテ還ス可シ但シ朽廢又ハ防拒ス可カラサルカニ因リ滅尽毀壞シタル部分ハ格別ナリトス

第七百六十三條 又其模様書ムテラサル時ハ借主其修理ノ整フタル模様ヲ以テ受取タリト者做シ後ニ其修理ヲ整ヘテ之ヲ還ス可シ

第七百六十四條 借主ハ其借受ケタル時間物

件ヲ滅尽毀壞シタルノ償ヲ擔當ス可シ但シ自己ノ過失ニ非スシテ滅尽毀壞シタルノ證アル時ハ格別ナリトス

第七百六十五條 借主ハ火災ノ責ニ任ス可シ但シ意外ノ事又ハ防拒ス可カラサルカニ因リ火災ノ生シタルトテ證シ又ハ近隣ノ家屋ヨリ其火ノ傳ハリシトテ證スル時ハ格別ナリトス

第七百六十六條 借主數人アル時ハ皆連帯シテ火災ノ責ニ任ス可シ

然レ其借主中一人ノ住所ヨリ火災ノ生シタル證アル時ハ其一人ノミ其責ニ任ス可シ

第七百六十七條 借主ハ自己ノ家族又ハ自己ヨリ更ニ債借シタル者ノ所為ニ因リ生シタル所ノ滅尽毀壞ヲ已レニ擔當ス可シ

第七百六十八條 家屋及ヒ土地ノ債貸ニ付キ

其證書ノアラサル時ハ口上ヲ以テ契約シタル期限ニ從ヒ貸主又ハ借主ノ一方ヨリ他ノ一方ニ退去ノコトヲ告知ス可シ

第七百六十九條 債貸ノ證書アル時ハ其證書ニ定メタル期限ノ終ル時ニ至リ其契約モ亦自カラ終ル可シ但シ此場合ニ於テハ一方ヨリ他ノ一方ニ別段退去ノ告知ヲ為スニ及ハス

第七百七十條 證書アル債貸ノ契約ノ期限

ノ終リシ後ニ借主猶退去スルヲナク且貸主  
ヨリ借主ニ退去ス可キヲ求メサル時ハ更  
ニ自カラ貸貸ノ契約ヲ生シタリトス可シ但  
シ其更ニ生シタル契約ノ効ハ證書ナキ貸貸  
ノ契約條中ニ之ヲ定ム 第七百三  
十六條見合  
第七百七十一條 前條ニ記シタル場合ニ於テ  
更ニ自カラ貸貸ノ契約ヲ生シタルト雖モ以  
前ノ貸借ニ付テノ保證人ハ其義務ヲ免ル可

第七百七十二條 貸貸ノ契約ハ其貸貸ヲ為シ  
タル物件ノ滅盡シタルニ因リ又ハ借主或ハ  
貸主其契約ノ義務ヲ行ハサルニ因リ之ヲ取  
消ス可シ

第七百七十三條 貸貸ノ契約ハ貸主又ハ借主  
ノ死去ニ因リ之ヲ取消ス可カラス

第七百七十四條 貸主其貸貸シタル物件ヲ他

人ニ賣タル時其買主ニ證書ヲ有スル借主ヨ  
シテ期限内ニ強テ退去セシムルヲ得ス但  
貸貸ノ證書ニ其物件ヲ賣拂フコトアル借主  
其借主ヲシテ退去セシムルヲ得キコト別  
段定メ置キタル時ハ格別ナリトス

第七百七十五條 貸貸ノ證書中ニ貸主後ニ其  
物件ヲ賣ルコトアル時ハ其買主借主ヲシテ退  
去セシムルヲ得キ者ヲ記シ置キ貸主其借

主ニ對シ為ス可キ損失ノ償ニ付別段ノ契約  
ナキ時ハ貸主ヨリ次ノ方法ヲ以テ借主ニ其  
償ヲ為ス可シ

第七百七十六條 家屋ヲ貸貸シタル時ハ貸主  
ヨリ退去ノ求メヲ為シタルヨリ退去ヲ為ス  
ニ至リシ時間ノ貸銀ニ均シキ金高ヲ其償ト  
シテ拂フヘシ

第七百七十七條 又土地ヲ貸貸シタル時ハ貸



主ヨリ借主ニ其債貸ヲ約定シタル期限ノ残  
期ノ債銀ノ三分一ニ均シキ金高ヲ其償トシ  
テ拂フ可シ

第七百七十八條 又盛大ナル製造所及ヒ其他  
許多ノ元金ヲ費スル要スル建造物ニ當シ  
タル時ハ評價人ヲシテ退去セシムルニ付テ  
ノ償額ヲ定メシム可シ

第七百七十九條 貸主其貸與ヘタル物件ヲ賣拂

フコアル時ハ其買主借主ヲシテ退去セシム  
ルヲ得可キコトヲ債貸ノ契約ニ預メ定メ置キ  
タルニ因リ其買主借主ヲ退去セシメントス  
ル時ハ家屋ノ借主ニハ退去セシムルヨリ少  
クトモ一ヶ月前ニ退去ヲ求ムヘク土地ノ借  
主ニハ少クトモ一年前ニ其退去ヲ求ムヘシ  
第七百八十條 借主ハ其貸主ヨリ前數條ニ  
記シタル償ヲ受ケ又其貸主ノ償ヲ出サ、ル

於テハ買主ヨリ其償ヲ返シタル上ニ非サ  
レハ退去スルニ及ハス

一七五〇

第七百八十一條 貸貸ノ證書アラサル時ハ買  
主借主ニ對シ其償ヲ出スニ及ハス

一七五一

第七百八十二條 賣主ノ買戻ヲ為シ得可キ契  
約ヲ以テ賣買ヲ為シタル時ハ買主其賣主ノ  
買戻ヲ為シ得可キ期限ノ終リシニ因リ其確  
定ノ所有者トナルニ至ル迄ハ借主ヲ退去セ

シムルノ權ヲ行フヲ得ス

家屋ノ貸貸ニ付キ別段ノ規則

一七五二

第七百八十三條 家屋ノ借主其借受ケタル家  
屋内ニ相當ノ家具ヲ備ヘサル時ハ貸主ヨリ  
之ヲ退去セシムルヲ得可シ但シ借主其償  
銀ヲ拂フ可キ保證人ヲ立ル時ハ格別ナリト  
ス

一七五三

第七百八十四條 家屋ノ借主其賃銀ヲ拂ハサ

ルニ因リ其所有者ヨリ已レノ家具ヲ差押レ  
ル、時ハ其家屋ノ一部ヲ又借シタル者其時  
ニ負フタル自己ノ借受債銀ノ高ニ至ル迄其  
所有者ニ對シテ義務ヲ擔當ス可シ但シ此場  
合ニ於テ又借リシタル者ハ自己ノ貸主ニ前  
拂シタル金高アルトテ述ヘ其所有者ニ對テ  
負フタル義務ヲ免カル、トテ得ス  
又借シタル者其借受ノ契約ニ從テ拂フタ

ル債銀ハ前項ノ前拂ヒト看做ス可カラス

第七百八十五條 借主ノ擔當ス可キ小補理ハ  
別段ノ契約アルキノ外左ノ物件ノ補理ヲ以  
テ最モ重立タルモノトス

竈并水棚

家屋中ノ牆壁

疊建具錠鍵

第七百八十六條 借受タル家屋ノ朽廢シタル

ニ因リ又ハ防拒ス可カラザルカニ因リ補理  
ヲ為ス可キニ至リシ時ハ借主之ヲ擔當スル  
ニ及ハス

一七五五

第七百八十七條

井ヲ浚ヒ及ヒ不淨壺ヲ淨ム  
ルハ別段ノ契約アル時ノ外貸主之ヲ擔當  
ス可シ

一七五七

第七百八十八條

家屋ニ備フル家具ヲ賃貸シ  
タル時ハ其家屋ノ賃貸ニ付キ定マリタル期

限間其家具ヲモ亦貸與ヘタルモノト者做ス  
ハシ

一七五八

第七百八十九條

家具ノ備ハリタル賃坐敷ニ付  
キ其賃銀ヲ一年幾許ト定ムル時ハ一年ノ期  
限ヲ以テ其契約ヲ為シタルモノト者做ス可  
シ

又其賃銀ヲ一月幾許ト定メタル時ハ一月ノ  
期限ヲ以テ契約ヲ為シタルモノト者做ス可

又其債銀ヲ一日幾許ト定メタル時ハ一日ノ  
期限ヲ以テ其契約ヲ為シタルモノト看做ス  
可シ

第七百九十一條 借主ノ過失ニ因リ其債償ノ  
契約ヲ取消シタル時ハ借主其債主ノ更ニ他  
人ニ貸シ與フルコトヲ得ルニ必要ナル時間ノ  
借債ヲ拂フ可シ但シ借主其借受ケタル家屋

又ハ房室ニ害ヲ加ヘタル時ハ亦其償ヲモ出  
ス可シ

第七百九十一條 貸主ハ其貸與ヘタル家屋ニ  
自カラ住ヤント欲スルコトヲ述フルト雖モ借  
貸ノ契約ヲ取消スコトヲ得ス但シ之ニ反シタ  
ル契約アル時ハ格別トリス

第七百九十二條 貸貸ノ契約ニ貸主其貸與ヘ  
タル家屋ニ自カラ住ヤント欲スル時ハ借主

ヲシテ退去セシムルヲ得キコトヲ定メタル  
ニ於テハ其借主ヲシテ退去セシムル前少ク  
トモ一ヶ月前ニ其退去ノ求メヲ為ス可シ

土地ノ賃貸ニ付キ別段ノ規則

第七百九十三條 土地ノ利益ヲ貸主ト共ニ分  
ツ可キノ契約ニテ耕作ヲ為ス者ハ其土地ヲ  
更ニ他人ニ貸與フルコトヲ得ス又其借受ノ契  
約ヲ他人ニ譲リ渡スコトヲ得ス但シ此等ノ事

ヲ為シ得可キノ権ヲ賃貸ノ契約ヲ以テ持  
定メタル時ハ格別ナリトス

第七百九十四條 借主前條ノ契約ニ背ク時ハ  
貸主其土地ヲ取還シ且借主其契約ニ背キタ  
ルニ因リ貸主ノ為メ生シタル損失ノ償ヲ出  
ス可シ

第七百九十五條 土地ノ賃貸ノ契約ニ定メタ  
ル其方積真ノ方積ヨリ更ニ少ク又ハ更ニ多

キ時ハ此篇賣買ノ部ニ記載シタル場合ト視  
則トニ循テ其借債ヲ増減ス可シ 第十六百十  
七条以下見

セ合

第七百九十六條

土地ノ借主其土地ヲ耕作ス  
ルニ必要ナル獸類ト器具トヲ備フルトナキ  
時又ハ其耕作ヲ廢止シタル時又ハ其地ヲ耕  
作スル方法ノ粗略ナル時又ハ其土地ヲ契約  
ニ定メタル以外ノ方法ニ用ヒタル時又ハ其

第七百九十七條

土地借主ハ其地ヲ侵奪スル  
者アル時貸主ニ之ヲ告知ス可シ若シ之ヲ告

他總テ借主賃借ノ契約ニ背キタルニ因リ、賃  
主ノ為メ損害ヲ生シタル時ハ貸主其時ノ景  
状ニ從ヒ其契約ヲ取消スコトヲ得可シ  
借主ノ所持不良ナルニ因リ、全上ノ契約ヲ取  
消シタル時ハ貸主ノ受ケタル損失ヲ償フ可  
シ

知セスシテ貸主ノ為メ損失アル時ハ借主之ヲ償フ可シ

其告知ハ其土地ト貸主ノ住所トノ間ノ距離

ニ從ヒ訴訟ノ相手方ヲ裁判所ニ呼出ス為メ

定メタル期限

訴訟法第七十二条第七十三條見合セ

ト同一ノ期

限内ニ之ヲ為ス可シ

第七百九十八條 數年間土地ノ貸借ノ契約ヲ

結ビ其期限内ノ一年其土地ヨリ收納スル穀

物ノ全部又ハ半以上意外ノ事ニ因リ失フコトアル時ハ借主其借債ヲ減ス可キノ求メヲ為スコトヲ得可シ

第七百九十九條 土地ノ貸借ノ契約ノ期限唯一年ナ

ル時其收納ス可キ物ノ全部又ハ半以上ヲ失

フコトアルニ於テハ借主其損失ノ割合ニ從ヒ

其借債ノ一部ヲ拂フコトヲ免カル可シ

其損失收納ス可キ物ノ半以下ナル時ハ借主



其借債ヲ減スルヲ得ス

第八百條

借債シタル土地ヨリ生スル收納

物ヲ其土地ヨリ取去リタル後失スタル時ハ

借主其借債ヲ減スルヲ得ス

然レ貸借ノ契約ニ其土地ヨリ生ス可キ收納

物ノ一部ヲ貸主ノ所得ト為ス可キヲ定メ

置クル時ハ貸主其收納物ノ損失ノ一部ヲ已

レニ擔當ス可シ但シ借主其貸主ノ所得トス

可キ部分ヲ引渡ス可キ催促ヲ受ケ猶之ヲ渡

サレ時ハ借主一人ニテ其收納物ノ損失ヲ

擔當ス可シ

又土地ノ貸借ノ契約ヲ為シタル時借主自己

ノ為メ損失ヲ生ス可キ理由アルト既ニ明ニ

シテ其後ニ至リ其損失ヲ受ケタル時ハ其借

債ヲ減セント求ムルヲ得ス

第八百一條

借主ハ別段ノ契約ニ因リ意外ノ

大正官

事ニ付テノ損失モ亦一身ニ擔當スル事アリ  
第八百二條 前條ノ契約ハ水旱風蝗等ノ如ク

通常ノ意外ノ事ノニニ限ル可シ

其契約ハ兵亂并常ニ水患ナキ地ノ洪水等ノ

如ク非常ナル意外ノ事ニ及ホスナシ但シ

借主通常ノ非常トヲ問ハス總テ意外ノ事ニ

付テノ損失ヲ自己ニ擔當ス可キ契約ヲ為ス

タル時ハ格別ナリトス

第八百三條 總テ證書ナキ土地貸借ノ契約ハ

借主其借受ケタル土地ノ收納物ヲ得ルニ必

要ナル期限間之ヲ為シタルモノト看做ス可

シ

第八百四條 證書アル土地貸借ノ契約ニ付キ

期限ノ終リニ至リ借主猶其地ヲ退去スルハ

ナク貸主モ亦之ヲ退去セシムルナキ時ハ

更ニ貸借ノ契約ヲ生シタルモノト為ス可シ

但シ其更ニ生シタル契約ノ効ハ第七百七十四條ニ定メタル所ト同一ナリトス 第七百三十七

八条  
見合

第八百五條 土地ノ退去スル借主ハ已レニ代

リテ之ヲ借受ル者ニ翌年ノ作業ヲ為スニ害

ニナラサル様注意スヘシ

第八百六條 退去スル土地ノ借主嘗テ其土地

ヲ借受ケタル時藁及ヒ糞料ヲ得タルニ於テ

ハ亦其退去ノ時其一年間ノ藁及ヒ糞料ヲ遺シ置ク可シ又借主嘗テ此等ノ物ヲ得サリシ時ト雖モ其退去ノ時此等ノ物アルニ於テハ貸主其評價ヲ為サシメタル上之ヲ遺シ置カシムルヲ得可シ

人カノ貸貸

第八百七條 人カノ貸貸ノ種類中主タルモノ

三箇アリ

第一 使用ヲ受クル者ヲ雇フ事

第二 水陸運送ヲ為ス者ヲ雇フ事

第三 諸員ノ契約ニ因リ造営工作ヲ為ス者ヲ雇フ事

雇人雇エノ事

第八百八條 雇人ハ定マリシ期限ノ間雇<sub>エ</sub>ハ定マリシ工業ヲ為スノ外使用スル事ヲ得ス  
水陸ノ運送ヲ為フ者ヲ雇フ事

第八百九條 水陸ノ運送ヲ為ス者ハ其附託ヲ受ケシ物ヲ管守シテ之ヲ保全スルニ付キ此為附託ノ部ニ記スル旅店ノ主人ニ等シキ義務ヲ負フ可シ

第八百十條 水陸ノ運送ヲ為ス者ハ其舟車人足牛馬ニ積タル物ヲ已レニ擔當ス可キノニ非ス其舟車人足牛馬ニ積ムヘキ為メ港口又ハ庫中ニテ附託ヲ受ケタル物モ亦擔當

ス可シ

一七八四

第八百十一條 水陸ノ運送ヲ為ス者ハ其附託

ヲ受ケタル物ヲ失ヒ又ハ毀損シタル責ニ任

ス可シ但シ意外ノ事又ハ防拒スヘカラサル

カニ因リ之ヲ失ヒ又ハ毀損シタル旨ヲ證ス

レ時ハ格別ナリトス

一七八五

第八百十二條 水陸ノ運送ヲ為ス者ハ已レノ

附託ヲ受ケタル金高荷物ヲ記ス可キ簿冊ヲ

設ケ置ク可シ

請負ノ契約

一七八七

第八百十三條 造営工作ヲ為ス可キトテ人ニ

任スル時ハ其任ヲ受ケタル者其勞カノミヲ

賃貸シ又ハ其造営工作ニ用フル材料モ亦備

新ス可キノ契約ヲ為スコトヲ得可シ

一七八八

第八百十四條 雇工者之ニ用フ可キ材料ヲモ

亦備辦シタル時其材料ヲ雇主ニ引渡ス前何

レノ方法ヲ論ヤス其材料ノ滅尽破壊シタル  
ニ於テハ雇工者其損失ヲ擔當ス可シ但シ雇  
主雇工者ヨリ其材料ヲ受取ル可キノ求メラ  
受ケ猶之ヲ受取ラサル時ハ格別ナリトス

第八百十五條 雇工者其労カヲミテ賃貸シタ  
ル場合ニ於テ其造営工作ヲ為ス材料ノ滅尽  
破壊シタル時ハ其雇工者其損失ヲ擔當スル  
ニ及ハス但シ雇工者已レノ過失ニ因リ其材

料ヲ滅尽破壊シタル時ハ格別ナリトス

第八百十六條 前條ノ場合ニ於テ雇主未タ造  
営工作シタル物ヲ檢視ス可キノ求メテ受ケ  
ス且之ヲ受取ラサル内ニ其物ノ滅尽破壊シ  
タル時ハ縱令雇工者ノ過失ニ非スト雖モ雇  
工者其雇賃ヲ得ルヲ能ハス但シ其造営工作  
ニ用ヒタル材料ノ不良ナルニ因リ其物ノ滅  
尽破壊シタル時ハ格別ナリトス

第八百十七條 造営工作ヲ區分シテ請負ヒ又ハ尺度ニ從テ請負フタル時ハ其成就シタル部分毎ニ雇主其檢視ヲ為スヲ得可シ但シ雇主ヨリ雇工者ニ既ニ成就シタル造営工作ノ割合ヲ以テ其賃銀ヲ拂ヒタル時ハ其拂ヒタル部分ニ付キ既ニ檢視ヲ為シタルモノト者做ス可シ

第八百十八條 請負ニテ造リタル建造物其造

法ノ不良ナルニ因リ其全部又ハ一部ノ減尽破壊シタル時ハ請負人其責ニ任ス可シ

但請負ノ年限ハ雙方ノ契約ニ依ルヘシ

第八百十九條 数人協議シタル積書ニ從ヒ建造ヲ為スヘキヲ其ノ中ノ一人ニ任シタル時ハ其一人エ丁ノ勞カ及ヒ材料ヲ増シタルヲ口實ト為シ又ハ積書ニ記シタル所ヲ變易シ或ハ増加シタルヲ口實ト為シテ其價ヲ増テ

シト求ム可カラス但シ教人書面ヲ以テ其度  
 易及ヒ増加ヲ許可シタル時ハ格別ナリトス  
 第八百二十條 雇主ハ造営工作ヲ既ニ始メ  
 シ後ト雖モ請負人ニ其費用并ニ其労力及ヒ  
 其利得トナル可キ諸件ヲ償フ時ハ其請負人  
 契約ヲ取消スヲ自由ナリトス  
 第八百二十一條 請負人ハ其使用スル者ノ所  
 為ヲ皆己レニ擔當ス可シ

獸類ノ貸借

第八百二十二條 獸類貸借ノ契約トハ貸主ト  
 借主ト互ニ協議シタル所ニ從ヒ一方ヨリ他  
 ノ一方ニ獸類ヲ貸與ヘ他ノ一方ニテ之ヲ管  
 守シ且畜養スルノ契約ヲ云フ

第八百二十三條 獸類ノ貸借ニ數種アリ

通常ノ貸借

雙方互ニ其數ノ半ヲ出合スル貸借



土地ノ所有者ト其地ヲ借受クル者ト為シタル貸借又ハ土地ノ所有者自己ト土地ノ利益ヲ分ツ可キノ約束ニテ其地ヲ借受クル者ト為シタル貸借

又其外通常不當ニ 獣類ノ貸借ノ契約ト称スルモノアリ

第八百二十四條 農業商業ノ為メ利益ヲ得ル又ハ増殖ス可キ 獣類ハ如何ナル種類タルヲ問ハ

ス之ヲ貸與フルヲ得可シ

第八百二十五條 別段ノ契約ナキ時ハ次ノ規則ヲ以テ 獣類ノ貸借ヲ定ム可シ

通常ノ貸借

第八百二十六條 通常ノ貸借トハ増殖シタル 獣類ノ半ヲ借主ノ利益ト為シ又其損失ノ半ヲ借主ノ損失ト為ス可キ約束ニテ一方ヨリ他ノ一方ニ 獣類ヲ貸與シ其借主之ヲ管守シ

且畜養スル契約ヲ云フ

第八百二十七條 貸借ノ契約書ニ其獸類ノ半評

價ヲ記スルト雖モ其所有ノ權ヲ借主ニ移ス  
コナク唯其契約ノ終ニ至リ利益又ハ損失ノ  
幾許ナルヤヲ定ムル為メナリトス

第八百二十八條 借主ハ其獸類ヲ保全スルニ  
付キ懇切ニ着意ス可シ

第八百二十九條 借主ハ已レノ過失ニ因リ其獸

類ヲ傷害シタル時ノ外意外ノ事ヲ擔當スル  
ニ及ハス

第八百三十條 借主ト貸主トノ間ニ争ノ生  
スル時ハ借主ハ意外ノ事アリシ旨ヲ證シ貸  
主ハ借主ノ過失ノアリシ旨ヲ證ス可シ

第八百三十一條 意外ノ事ニ付キ獸類ノ死シ  
タルニ因リ借主自己ノ義務ヲ免レタル時ハ  
必ス貸主ニ其皮ヲ返テ可シ

第八百三十二條 借主ノ過失ニ非スシテ歎類ノ全數死シタル時ハ貸主其損失ヲ一身ニ擔當ス可シ

又其歎類ノ一部ノ死シタル時ハ嘗テ評價シタル時ノ價ト其貸借ノ契約期限ノ終ル時評價シタル價ト平均シ其損失ヲ借主ト貸主トノ雙方ニテ共ニ擔當ス可シ

第八百三十三條 左ノ條件ハ之ヲ契約ス可シ

ラス假令契約シタルト雖モ其効ナカルヘシ借主ノ過失ニ非ス意外ノ事ニ因リ歎類ノ全數死スルト雖モ借主其損失ヲ一身ニ擔當ス可キ事

若シ歎類ニ損失アル時ハ借主其利益ヨリ更ニ大ナル損失ノ部分ヲ擔當ス可キ事  
貸主貸借ノ契約期限ノ終リニ至リ其嘗テ貸與ヘタル歎類ノ數ヨリ更ニ多數ヲ得可キ事

第八百三十四條 借主ハ其獸類ノ乳汁糞料及  
ヒ其獸カラ已レノ利益ト為ス可シ又獸毛及  
ヒ獸子ハ貸主ト借主トニ之ヲ分ツ可

第八百三十五條 借主ノ其借受ケタル獸類又  
ハ獸仔ヲ貸主ノ承諾ヲ得スシテ人ニ賣拂ヒ  
又ハ贈與スルヲ得ス亦貸主モ借主ノ承諾  
ヲ得スシテ之ヲ人ニ賣拂ヒ又ハ贈與スルヲ  
得ス

第八百三十六條 他人ノ土地ヲ借受ケル者他

人ノ獸類ヲ借受其地ニ牧畜スル時ハ其土地  
ノ所有者ニ其旨ヲ告知ス可シ若シ其告知ヲ  
為サレ時ハ其土地ノ所有者其借債ノ償ド  
シテ其獸類ヲ差押ヘ之ヲ賣拂フヲ得ヘシ  
但自己ノ獸類ヲ其地ニ牧畜スル時モ亦同  
様ナリトス

第八百三十七條 借主ハ貸主ニ告知セスシテ

歟モヲ剪取スルヲ得ス

第八百三十八條 歟類ノ貸借期限ヲ定ムル契

約アリサル時ハ三年ノ時間其貸借ヲ為シタ  
ルト者做ス可シ

第八百三十九條 借主其義務ヲ行ハサル時ハ三

年ノ期限ニ至ラスト雖モ貸主其貸借ヲ廢ス  
ルノ求メヲ為スト得可シ

第八百四十條 歟類ノ貸借終リシ時又ハ其

契約ヲ解除シタル時更ニ其歟類ヲ評價ス可  
シ

貸主ハ嘗テ評價シタル價高ニ充ル迄歟類ヲ

已レニ取戻シ其餘ヲ借主ト貸主トニ分ツ可

シ

又嘗テ評價シタル價額ニ充ツ可キ歟類ノ數

不足ナル時ハ貸主其現存スル數ヲ已レニ得

其損失ヲ貸主ト借主トニ分ツ可シ

双方互ニ獸類ノ数ノ半ヲ出合スル貸借

第八百四十一條 双方互ニ獸類ノ数ノ半ヲ出

合スル貸借トハ双方ノ者ヨリ獸類ノ数ノ半

ヲ出合セ其全数ヲ一方ニ借受ケ其利益ト損

失トヲ双方ニ分ツ會社ノ契約ヲ云フ

第八百四十二條 借主ハ獸類ノ通常貸借ノ時

ノ如ク獸類ノ乳汁糞料及ヒ其獸カラ自己ノ

利益ト為ス可シ

貸主ハ獸毛ノ半ト獸仔ノ半トヲ得可シ

總テ之ニ反シタル契約ハ其効ナカル可シ但

シ其獸類ノ貸主土地ノ所有者ニシテ借主其

地ヲ借受タル者タル時又ハ其所有者ト其地ノ利

益ヲ分ツ可キ約束ヲ以テ其地ヲ借受ケタル

者タル時ハ格別ナリトス

第八百四十三條 其他獸類ノ通常ノ貸借契約

ノ規則ハ双方互ニ獸類ノ半ヲ出合セタル貸

借<sup>ニ</sup>モ亦通シテ之ヲ用フ可シ

土地ノ所有者其土地ヲ借受ル者ニ 獸類  
ヲ貸與フル契約

第八百四十四條 此契約ハ土地ノ所有者其土

地ト 獸類トヲ貸與ヘ其契約ノ期限ノ終リニ

至リ其借主其嘗テ借受ケタル時評價セシ價

ニ均シキ 獸類ヲ遺シ置ク可キヲ云フ

第八百四十五條 土地ノ所有者土地ヲ借受ク

大正官

ル者ニ貸與フル 獸類ヲ評價シタルト雖モ其  
獸類所有ノ權ヲ借主ニ移スヲナク唯借主其  
獸類ヲ借受クル時間ノ損失ヲ已レニ擔當ス  
可キ義務アリトス

第八百四十六條 借主土地ヲ借受クル時間其

獸類ヨリ得ル所ノ利益ハ皆自己ノ所得ト為

ス可シ但シ之ニ及シタル契約アル時ハ格別

ナリトス

第八百四十七條 土地ヲ借受ケル者ニ 獸類ヲ  
貸與ヘタル時ハ借主其糞料ヲ自己ノ利益ト  
為ス可カラス之ヲ其土地ニ屬シタルモノト  
シテ其耕作ノ為メノミニ用フヘシ

第八百四十八條ノ意外ノ事ニ因リ其獸類ノ全  
數ヲ失フタル時ト雖モ借主其損失ヲ已レニ  
擔當ス可シ但シ之ニ反シタル契約アル時ハ  
格別ナリトス

第八百四十九條 土地ノ債借ノ契約期限ノ終リ  
ニ至リ借主ハ其當テ評價シタル 獸類ノ價高  
ヲ貸主ニ拂ヒ其獸類ヲ已レニ有ル置クヲ  
得ス當テ其借受ケシ 獸類ニ等シキ價ノ 獸類  
ヲ遺シ置ク可シ  
若シ其獸類ノ數不足ナル時ハ借主其不足ノ  
部分ヲ價ヲ以テ補フ可ク若シ又餘分アル時  
ハ其餘分ヲ已レノ所得ト為スヲ得可シ

大  
收  
官



土地ノ所有者ト其地ノ利益ヲ分ツ可キ  
約束ニテ土地ヲ借受クル者ニ其所有者  
ヨリ獸類ヲ貸與フル契約

第八百五十條

土地ノ利益ヲ其所有者ト共

ニ分ツ可キ約束ニテ之ヲ借受ケシ者ノ過失  
ニ非スシテ其借受ケシ獸類ノ全數死スル時  
ハ貸主其損失ヲ已レニ擔當ス可シ

第八百五十一條

土地ノ利益ヲ其所有者ト共

ニ分ツ可キ約束ニテ之ヲ借受ケシ者其借受  
ケタル羊毛ノ已レニ屬ス可キ部分ヲ通常ノ  
價ヨリ更ニ低價ニテ貸主ニ讓ル可キト又ハ  
獸類ヨリ得可キ利益中ニテ貸主其借主ノ得  
ル所ヨリ更ニ多分ノ利益ヲ得可キ事又ハ貸  
主獸類ノ乳汁ノ半ヲ得可キノ契約ヲ為ス  
ヲ得可シ

然氏全上ノ借主獸類ノ損失ヲ全ク已レニ擔

當ス可キノ契約ハ之ヲ為スヲ許サス

一八三九

第八百五十二條 此類ノ獸類貸借契約ノ期限

ハ其土地ノ貸借契約ノ期限ト同時ニ終ル可

シ

一八三〇

第八百五十三條 其他此類ノ獸類貸借ノ契約獸類

ノ通常貸借契約ノ規則ニ准フヘシ

通常不當ニ獸類ノ貸借ト称スル契約

一八三一

第八百五十四條 一頭又ハ數頭ノ牛ヲ畜養ス

シムル為メ及ヒ其小屋ヲ設ケシムル為メ人

ニ其牛ヲ貸與ヘタル時ハ其貸主其所有ノ權

ヲ保ツヘシ但其貸主ハ其貸與ノ時間生レタ

ル牛仔ノミヲ已レノ利益ト為スヲ得可シ

會社ノ契約

總規則

一八三一

第八百五十五條 會社ノ契約トハ二人以上ニ

テ互ニ物ヲ共通シ其利益ヲ分ツヲ云フ

第八百五十六條

會社ノ契約ハ法ニ適シタル  
事ヲ目的ト為ス可ク且會社中各人ノ利益ノ  
タメ之ヲ為ス可シ

會社中ノ各人ハ金高又ハ物品又ハ勞カヲ其  
會社ニ供ス可シ

第八百五十七條

會社ノ契約ノ目的ト為ス所  
ノ價ノ多少ヲ問ハス其契約ノ證書ヲ記ス可  
シ證人ヲ以テ證トスルヲ得ス

會社ノ種類

第八百五十八條

會社ハ之ヲ分ツテ二種トス

一ハ諸般ノ財産ニ付テノ會社又一ハ別段定  
メタル財産ニ付テノ會社ナリ

諸般ノ財産ニ付テノ會社

第八百五十九條

諸般ノ財産ニ付テノ會社ニ二

種アリ一ハ現ニ所有スル諸般ノ財産ニ付テ  
ノ會社又一ハ諸般ノ利益ニ付テノ會社ナリ

第八百六十條

現ニ所有スル諸般ノ財産ニ付テノ會社トハ社中ノ者其現ニ所有スル動産及ヒ不動産ノ全部ト其動産及ヒ不動産ヨリ得可キ利益トヲ共通スル會社ヲ云フ又此種類ノ會社ニハ全上ノ動産及ヒ不動産ヨリ得可キ以外ノ利益モ亦共通ト為スヲ得可シト雖モ社中ノ者贈遺ノ名義ニテ後ニ人ヨリ得ル所ノ財産ハ唯其入額所得ノ權ノミ

ヲ共通ト為スヲ得可シ

第八百六十一條

諸般ノ利益ニ付テノ

會社ト

ハ其會社ヲ結フ時間ノ如何ナル名義アルヲ問ハ然テ勞カニ因リ得ル所ノ諸件ヲ共通スル會社ヲ云フ但シ其會社ニ加ハリシ各人其契約ヲ結ビシ時所有スル動産ハ亦之ヲ共通ス可シト雖モ其不動産ニ付テハ其入額所得ノ權ノミヲ共通ス可シ

第八百六十二條 諸般ノ財産ニ付テノ會社ノ

契約ニ其會社ノ種類ヲ別段定メタルヲナキ

時ハ諸般ノ利益ニ付テノ會社ノ契約ヲ結ビ

タリト者做ス可シ

別段定メタル財産ニ付テノ會社

第八百六十三條 別段定メタル財産ニ付テノ

會社トハ財産中ノ別段定マリシ物ヲ所有ス

ルノ權又ハ之ヲ用フルノ權又ハ其物ヨリ生

ス可キ利益ヲ得ルノ權ヲ共通スル會社ヲ云  
フ

第八百六十四條 別段指定メタル目論見ノ為

メ又ハ職業ヲ行フ為メ教人相連合スル契約

ハ亦之ヲ別段定メタル財産ニ付テノ會社ナ

リト者做ス可シ

社中各人ノ間ニ互ニ行フ可キ義務

第八百六十五條 會社ハ其契約ヲ為シタル時

ヲ以テ其初ト為ス可シ但シ其他ノ日時ヲ以テ其初ト為ス可キトテ契約書ニ定メタル時ハ格別ナリトス

第八百六十六條 會社ヲ結フ契約書ニ其會社

ノ繼續ス可キ時間ヲ別段定メタルトナキ時ハ原第千八百六十九條ニ記スル所ノ外總テ社中ノ者ノ生涯繼續ス可キモノト看做ス可シ又成就ス可キ期限ノ定マリシ事務ニ管シ

タル會社ハ其事務ノ成就スルニ至ル迄ノ時間繼續ス可キモノト看做ス可シ

第八百六十七條 社中ノ各人ハ會社ノ共通ト

為サント約シタル諸件ヲ其會社ニ引渡ス可キノ義務アリ  
社中ノ一人ヨリ會社ノ共通ト為シタル物件別段定マリシ物タル時會社其正當ノ所有者ヨリ許訟ヲ受ケ之ヲ奪ハルニ於テハ其物

ヲ會社ノ共通ト為シタル者其會社ニ對シ償  
 ヲ為ス可キノ義務アリ但シ此事ハ賣主ノ買  
 主ニ對スル義務ニ等シキモノトス  
原第一千六百廿五條  
 以下見  
 合セ

第八百六十八條 社中ノ者金高ヲ其會社ノ共  
 通ト為ス可キノ約束ヲ為シ其事ヲ為サ、ル  
 時ハ其金高ヲ渡ス可キ日ヨリ以來其息銀ヲ  
 拂フ可キノ義務ヲ負フ可シ

又社中ノ者己レノ利益ヲタメ其會社ノ資本  
 中ヨリ取用ヒタル金高ニ付テハ其引取リタ  
 ル日ヨリ以來其息銀ヲ拂フ可キノ義務ヲ負  
 ノ可シ

第八百六十九條 會社中ニテ其勞カヲ會社ニ供  
 スルヲ約シタル者ハ其勞カノ利益ヲ會社  
 ニ對シテ算計ス可シ

第八百七十條 會社中ノ者自己ニ人ヨリ金

高ヲ得可キノ權ヲ有シ、會社ニ於テモ亦其人ヨリ金高ヲ得可キノ權ヲ有スル時ハ縱令會社中自己ニ其權ヲ有スル者其負債者ヨリ金高ヲ受取書ニ其金高ノ全部ヲ自己ノ得可キ義務ヲ盡スニ充テ用フ可キ旨ヲ記ルシタルト雖、自己ノ得可キ義務ノ高ト會社ノ得可キ義務ノ高トノ割合ヲ以テ其受取リシ金高ヲ二個ノ義務ヲ尽クスニ充テ用フ可シ

又其社中ノ者ノ受取書ニ其受取リタル金高ノ全部ヲ會社ノ得可キ義務ヲ尽クス為ノ充テ用フ可キ者ヲ記シタル時ハ其記シタル所ノ如ク執行フ可シ

第八百七十一條 會社中ノ一人會社ノ全負ノ

共通シテ得可キ義務中ニテ自己ノ得可キ部分ヲ受取リタル後其負債者其他ノ部分ヲ尽クスヲ能ハサルニ至リシ時ハ既ニ其義務ヲ



得タル者其得タル所ハ特ニ已レノ部分ナリ  
ト云ヘル語ヲ其受取書ニ記シタルト雖其受  
ケ取リシ諸件ヲ會社財産ノ合部中ニ返還ス  
可シ

第八百七十二條 會社中ノ者ハ已レノ過失ニ

因リ會社ノ為ノ生シタル損失ヲ償フ可シ但  
シ他ノ事ニ付キ其者ノ勞カニテ會社ノ為ノ  
生シタル利益ヲ其損失ト差引スルヲ得ス

第八百七十三條 別段定マリシ物件ノ入額所

得ノ權ヲミテ會社ノ共通ト為シ其物件使用  
スルニ因リ耗損セサルモノタル時ハ其物件  
ノ所有者全ク其損失ヲ已レニ擔當ス可シ  
若シ其物件使用スルヲ因リ耗損ス可キモノ  
タル時又ハ之ヲ保チ置クニ因リ其質ノ卑劣  
ニ至ル可キモノタル時又ハ其所有者之ヲ會  
社ノ為メニ賣拂ハシト定メタル時又ハ目錄

ニ其評價シタル價ヲ記シテ之ヲ會社ノ共通ト為シタル時ハ會社ニテ其物件ノ損失ヲ擔當ス可シ

其物件ヲ評價シタル時後ニ其減尽シタルニ於テハ其所有者其評價シタル價ノミヲ取戻スヲ得可シ

第八百七十四條 會社中ノ者ハ其會社ノ為メ用ヒタル自己ノ金高ニ付キ會社ヨリ其價ヲ

得可キノ求メテ為シ得可キノミニ非ス其會社ノ事務ニ付キ正實ニ負フタル義務及ヒ其會社ノ事務ヲ取扱フニ付キ已ムヲ得スシテ受ケタル損失モ亦會社ヨリ其價ヲ得可キノ求メテ為スヲ得可シ

第八百七十五條 會社ヲ結フ證書ニ社中各人ノ得可キ利益ト其擔當ス可キ損失トニ付キ別段其割合ヲ定メタルトナキ時ハ其各人會

社ノ資本中ニ加入シタル高ニ准シテ其割合ヲ定ム可シ

労カノミヲ會社ニ供シタル者ノ得可キ利益及ヒ損失ノ割合ハ會社ノ資本中ニ最モ少量ノ高ヲ加入シタル者ノ割合ニ均シトス

第八百七十六條 會社中ノ各人其得可キ利益及ヒ擔當ス可キ損失ノ割合ヲ定ムルニ付キ其社中ノ一人又ハ會社外ノ者ノ判断ニ任

カス可キヲ協議シタル時ハ其判断ノ不正ナルヲ分明ナルニ非レハ其事ニ付キ故障ヲ述フルヲ得ス

又會社中ノ者其判断ヲ知リタル時ヨリ既ニ三月以上ノ時間ヲ過コシタル時又ハ既ニ自カラ其判断ノ如ク執行ヒ初メシ時ハ其判断ニ因リ損害ヲ蒙リタルヲ訴フルト雖モ裁判所ニ於テ之ヲ取止ク可カラス

第八百七十七條 會社中ノ一人ニ利益ノ全部

ヲ與フ可キ契約ハ其効ナカル可シ

又會社中ノ一人又ハ數人ノ會社ノ資本中ニ  
加入シタル金高及ヒ財産ヲ以テ會社ノ損失  
ヲ償フニ充テ用フルコトナカラシムル契約ハ  
亦其効ナカル可シ

第八百七十八條 會社中ノ一人會社ノ契約書

ニ因リ特ニ其會社ノ事務ヲ支配ス可キノ任

ヲ受ケタル時ハ其支配ノ事ニ付キ諸般ノ所  
為ヲ行フコトヲ得可シ但シ其支配人ニ不正ノ  
事アル時ハ會社中ノ他人ヨリ故障ヲ述ルコ  
トヲ得可シ

其支配人ノ權ハ其會社ノ繼續スル時間至當  
ノ事故ナケレハ之ヲ廢スルコトヲ得ス

第八百七十九條 會社中ノ數人其會社ノ事務ヲ  
支配ス可キノ任ヲ受ケ各其職務ヲ定メタル

トナキ時又ハ其数人互ニ協議シタル上ニ非  
レハ事ヲ處置ス可カラサル旨ヲ別段定メタ  
ルトナキ時ハ會社ノ支配ニ管スル諸般ノ事  
務ヲ各自ニ執行フトヲ得ヘシ

第百八十條

會社ノ事務ヲ支配スル数人

互ニ協議シタル上ニ非レハ事ヲ處置ス可カ  
ラサルノ契約アル時ハ其支配人中ノ一人更  
ニ改メテ契約ヲ為シタル後ニ非レハ他ノ支

配人ノ立會ナクシテ事ヲ處置スルヲ得ス

一八六〇

第百八十一條

會社中ノ支配人ニ非サル者

ハ其會社ニ屬スル動産ト雖モ之ヲ賣拂ヒ又  
ハ質ト為スヲ得ス

一八六一

第百八十二條

會社中ノ一人自己ノ出合金

ノ權ニ付キテハ其會社中ノ者ノ承諾ヲ得ル  
ヲナクシテ他人ヲ已レノ組合人ト為スヲ  
得可シ然レ其一人縱令會社ノ支配人タリト

雖氏會社中ノ者ノ承諾ヲ得スシテ他人ヲ其會社中ニ加入セシムルヲ得ス

會社中ノ者會社外ノ人ニ對シテ行フ可キ義務

第八百八十三條 商業ノ為メニ非サル會社ニ

於テハ其會社中ノ者連帶シテ會社ノ義務ヲ負フヲナク巴レノ部分ノミノ義務ヲ擔當スヘシ但シ會社中ノ他ノ者其一人ノ義務ヲ連

帶シテ擔當ス可キヲ特ニ定メタル時ハ格別ナリトス

第八百八十四條 會社中ノ各人ハ其會社ノ出

シ合金ヲ高ニ付キ互ニ差異アリト雖モ其債主ニ對シテ皆同量ノ金高ヲ償フ可シ但シ其負債ノ證書ニ其會社中ニテ出シ合金ノ少キ者ハ債主ニ償フ可キ金高ニ亦サカル可キヲ別段記シタル時ハ格別ナリトス

第八百八十五條 會社中ノ者其會社ノ會計ノ  
 為メ義務ヲ負フタル者其義務ノ契約書ニ  
 記シタルト雖モ其義務ヲ契約シタル者ノミ  
 之ヲ擔當ス可ク會社中ノ他ノ者ハ之ヲ擔當  
 スルヲナカル可シ但シ會社中ノ他ノ者ヨリ  
 其中ノ一人ニ會社ノ為メニ其義務ヲ契約ス  
 可キ權ヲ授ケタル時又ハ其一人ノ負フタル  
 義務會社ノ利益トナリタル時ハ格別ナリト

ス

會社ノ契約終ル可キ方法

第八百八十六條 會社ハ左ノ数件ニ因テ終ル

可シ

第一 會社ヲ結ノ契約ニ定メタル期限ノ  
 終ル時

第二 會社ノ財産全ク減尽スル時又ハ會  
 社ノ目的タル事業ノ終成スル時

第三 會社中ノ者ノ死去スル時

第四 會社中ノ者終身懲役又ハ治産ノ禁

ヲ受ケ又ハ家資分散ヲ為ス時

第五 會社中ノ一人又ハ數人其會社ヲ退

去セント欲スル時第十八百六十九條見合

第八百八十七條 期限ノ定マリシ會社ヲ其期

限ノ終リシ後更ニ繼續セントスルニハ初メ

會社ヲ結ビタル契約書ト同一ノ体裁ノ證書

ヲ記ス可シ

第八百八十八條 會社中ノ一人物件所有ノ權

ヲ會社ノ共通ト為ヤント約シタル時現ニ其

物件ヲ共通スル前ニ之ヲ失フコトアルニ於テ

ハ其各人ニ付キ其會社ヲ解ク可シ

又物件ノ入願所得ノ權ノミヲ會社ノ共通ト

為シ其所有ノ權會社中ノ一人ニ屬シタル時

其物件ヲ失フニ於テモ亦其會社ヲ解ク可シ



然モ物件所有ノ權ヲ既ニ會社ノ共通ト為シ  
タル後ハ縱令其物件ヲ失フト雖凡其會社ヲ  
解クヲナカレ可シ

一八六八  
第八百八十九條 會社中ノ一人死去スル時ハ生  
存スル者其家督相續人ト其會社ヲ繼續シ又  
ハ其會社中ノ生存スル者ノミニテ其會社ヲ  
繼續ス可キヲ預定シタルニ於テハ其約定  
ニ循フ可シ但シ死者ノ家督相續人ハ其死者

死去ノ時ノ會社ノ模様ニ准シテ其會社中ヨ  
リ分派ヲ得ルノ權ヲ有ス可シ然モ其相續人  
ハ死者ノ死前ニ為シタル事ヨリ連續シテ生  
シタル會社ノ利益ノ外其死後ノ利益ニ參加  
スルヲ得ス

一八六九  
第八百九十條 會社中一人ノ意ニ因リ其會  
社ヲ解キ得可キハ無期ノ會社ノミニ限ル可  
キトニシテ其一人ヨリ會社中ノ各人ニ其會

社ヲ退去セントスルコトヲ告知シテ之ヲ為ス  
可シ但シ其會社ヲ退去セントスルコト正実ノ  
意ニ出テス又ハ時宜ニ適セサルハ其退去  
ヲ許スヘカラス

第八百九十一條 會社中ノ数人互ニ共通シテ  
得ントスル利益ヲ其中ノ一人自己ノ一身ノ  
ミノ所得ト為ス可キ為メ退去セント欲スル  
ハ正実ノ意ニ出ラサルモノトスヘシ

會社ノ事業未ク完成セスシテ會社ノ為メ猶  
之ヲ繼續スルコトノ必要ナルハ其一人退去セ  
ントスルニ於テハ時宜ニ適セサル者トス可  
シ

第八百九十二條 期限ノ定マリシ會社ヲ解クコ  
トハ正當ノ事故アルニ非サレハ其期限ノ終ラ  
サル前ニ其中ノ一人ヨリ之ヲ許フルヲ得ス  
但シ其事故トハ會社中ノ他ノ者其義務ヲ行

ハヤルヲ又ハ其一人常ニ病ニ罹リ會社ノ事務ヲ為シ能ハサルヲ等ニシテ其是非輕重ハ裁判役ノ審判ニ任ス可シ

貿易會社ノ規則

第八百九十三條 此會社ノ規則中ニテ商法及

商業ノ習慣ニ反セサル條件ハ之ヲ貿易會

社ニ通シテ用フヘシ

貸借 貸借ノ規則ト混スヘカラス

第八百九十四條 此貸借ハ貸銀ナキモノニシ

テ其類ニアリ

一ハ使用シテ耗尽セサル物ノ貸借

一ハ使用スルニ因リ耗尽スヘキ物ノ貸借

耗尽セサル物ノ貸借

第八百九十五條 耗尽セサル物ノ貸借トハ貸

主ヨリ借主ノ使用ノ為ノ物件ヲ引渡シ借主

之ヲ用ヒタル後其借主ニ還ス可キ契約ヲ

云フ

一八七七

第八百九十六條 貸主ハ其貸與ヘタル物ノ所

有ノ権ヲ保有ス可シ

一八七八

第八百九十七條 此類ノ貸借ト雖モ賣買ヲ為

シ得可キ物件ヲ目的ト為ス可シ

一八七九

第八百九十八條 此類ノ貸借契約ノ義務ハ貸

主ノ家督相続人及ヒ借主ノ家督相続人ニ之

ヲ傳フヘシ

然レ貸主借主ノ一身ヲ為メノヨニ物ヲ貸與

ヘタルルハ借主ノ家督相続人其物ヲ用フル

ヲ得ス

借主ノ義務

一八八〇

第八百九十九條 借主ハ其借受ケタル物ヲ管守シ且

保全スルニ付キ懇切ニ注意ス可シ

借主ハ其借受ケタル物ノ種類ニ因リ又ハ契

約ニ因リ定マリタル以外ノ方法ニ其物ヲ用

大政官

大政官

フルコヲ得ス若シ借主此規則ニ背キタルニ  
因リ貸主ノ為ノ損失ヲ生シタルハ其損失  
ヲ償フヘシ

第九百一十條 借主其借受ケタル物ヲ其當然ニ

非サル方法ニ使用シ又ハ其契約ニ定メタル  
ヨリ更ニ永キ時間用ルタルハ其物ノ滅尽シ  
タルニ於テハ縱令意外ノコトニ因ルト雖モ借  
主其責ニ任セサルヲ得ス

第九百一十條 借主自己ノ物件ヲ用レハ借受ケ

タル物件ノ滅尽セサルヲ得可キ場合ニ於テ  
自己ノ物件ヲ用ヒサルニ因リ其借受ケタル  
物件意外ノコトニ因リ滅尽シタル時又ハ自己  
ノ物件ト借受ケタル物件トノ中其一箇ノニ  
テ保全シ得可キ場合ニ於テ自己ノ物件ヲ保  
全シ借受ケタル物件ヲ失ヒタル時ハ借主其  
責ニ任スヘシ

第九百二條 物件ヲ貸與ヘシ時其評價ヲ為シ  
後ニ借主其物件ヲ失フコトアルニ於テハ縱令  
ト意外ノコトニ因ルト雖モ其責ニ任スヘシ但  
シ之ニ及シタル契約アルモ其格別ナリトス

第九百三條 借主其借受ケタル物件ヲ當然ノ  
用法ニ使用シ已レノ過失ニ非スシテ其物件  
ノ卑惡ニ至リシモ其責ニ任スルニ及ハス

第九百四條 借主ハ貸主ヨリ別ニ已レニ得可  
キ他物ノ償トシテ其借受ケタル物件ヲ保有  
スルコトヲ得ス

第九百五條 借主其借受ケタル物件ヲ使用ス  
ルニ付キ費用ヲ出シタルト雖モ貸主ニ對シ  
其償ヲ得ント求ムルコトヲ得ス

第九百六條 数人連帯シテ一箇ノ物品ヲ借受  
ケタルモ其数人貸主ニ對シ連帯シテ義務  
ヲ負フヘシ

貸主ノ義務

一八八八

第九百七條 貸主ハ預メ契約シテ定メタル期限ノ後ニ非レハ其貸與ハタル物ヲ取戻スルヲ得ス又其期限ヲ定メタルトナキハ其貸與ハタル目的ノ用法ニ借主之ヲ用ヒタル後ニ非レハ其物ヲ取戻スルヲ得ス

一八八九

第九百八條 然レ其預定セシ期限間又ハ借主其物ヲ使用スルト猶必要ナル時間ニ貸主意

外ノト起リ急ニ其物ヲ用フルヲ要スルニ付許へ出ル時ハ裁判役其時ノ景状ニ從ヒ借主ヲシテ其物ヲ貸主ニ還ヤシムルト云渡スヲ得ヘシ

一八九〇

第九百九條 借主物件ヲ借受クル時間其物件ヲ保全スルニ付キ貸主ニ告知スルノ暇ナク急迫ニシテ且已ムヲ得サルトニ因リ意外ノ費用ヲ出シタルハ貸主ヨリ其費用ヲ償フ

ハシ

一八九一

第九百十條 貸主其貸與ハタル物件ニ不良

ノコアルヲ知り借主ニ其旨ヲ告知セスシテ

借主ノ為メ損害ヲ生シタルキハ貸主其損害

ヲ償フヘシ

耗尽スヘキ物ノ貸借

一八九二

第九百十一條 耗尽スヘキ物ノ貸借トハ貸主

ヨリ使用シテ耗尽スヘキ定量ノ物ヲ渡シ借

主ヨリ其同種同質同量ノ物ヲ貸主ニ還スヘ  
キ契約ヲ云フ

一八九三

第九百十二條 此貸借ニ因リ借主其借受ケタ

ル物ノ所有者トナリ若シ其物ヲ失フタルハ

ハ之ヲ失ヒシ方法ノ如何ナルヲ問ハス然テ

借主ノ損失ト為スヘシ

一八九四

第九百十三條 獸類ノ如ク同種類ナリト雖モ

各自相異ナル物ハ耗尽スヘキ物ノ貸借ノ名

大正官



義ヲ以テ其貸借ヲ為スヘカラス

第九百十四條 金高ヲ借受ケタル者ノ義務ハ

其借受ノ證書ニ記シタル所ノ高ヲ返スヘシ

金高ヲ返ス時ニ貨幣ノ價低昂アリト雖氏借

主ハ其時通用スル貨幣ニテ其借受ケタル高

ヲ還スヘシ

第九百十五條 貨幣ノ材料及ヒ商品ヲ借受ケ

タル時ハ其價ノ低昂ヲ問ハス借主ヨリ其借

受ケタル物ト同質同量ノ物ヲ返スヘク其他  
ノ物ヲ返スヘカラス

貸主ノ義務

第九百十六條 耗尽スヘキ物ノ貸主ハ耗尽セ

サル物ノ貸借ニ付キ 第九百九十一條ニ記

シタル所ノ責ニ任スヘシ

第九百十七條 貸主ハ借主ト協議シテ定メタ

ル期限ニ至ラザレ内ニ其貸與ヘタル物ト同

質同量ノ物ヲ取戻スヲ得ス

第九百十八條 貸與ヘタル物ト同質同量ノ物

ヲ取戻スヘキ期限ヲ定メタルトナキ時ハ裁判役其時ノ景状ニ從ヒ借主ノ為メ猶預ノ期限ヲ許スヲ得可シ

第九百十九條 借主其借受ケタル物ト同質同

量ノ物ヲ返スヲ得ヘキ時又ハ之ヲ返スヘキノカアル時之ヲ貸主ニ返スヘキノ契約アル

ニ於テハ裁判役其時ノ景状ニ從ヒ其返還ノ期限ヲ定ムヘシ  
借主ノ義務

第九百二十一條 借主ハ貸主ト協議シテ定メタル

期限ニ至リ嘗テ借受ケシ物ト同質同量ノ物ヲ返スヘシ

第九百二十一條 若シ借主前條ニ記シタル如

ク執行ヲ能ハサル時ハ契約ニ猶ヒ其物ヲ

返スヘキ場所ニ於テ其價額ヲ返スヘシ

其場所ヲ定メタルトナキハ嘗テ借受ケシ

場所ニ於テ其價額ヲ返スヘシ

第九百二十二條 借主預定ノ期限ニ至リ當テ

其借受ケタル物ト同量ノ物又ハ其價額

ヲ返サ、ル時ハ貸主其事ヲ裁判所ニ訴出シ

タレ日ヨリ以來借主其息銀ヲ拂フヘキノ義

務ヲ負フヘシ

息銀アル貸借

第九百二十三條 金高商品又ハ其他使用スル

ニ因リ耗尽スル動産ノ貸借ニ付キ息銀ヲ出  
スヘキ契約ヲ為スコトヲ得ヘシ

第九百二十四條 借主別ニ契約ヲ為サスシテ

息銀ヲ拂フタル時ハ之ヲ取戻スコトヲ得ス又

之ヲ其元資ノ拂方ニ充テ用フルコトヲ得ス

第九百二十五條 息銀ハ法律上ニテ定メタル

モノアリ又ハ契約ヲ以テ定メタルモノアリ

契約ヲ以テ定メタル息銀ハ法律上ニテ定メタ

ル息銀ノ割合ニ過クレトヲ得可シ但シ別段  
法律上ノ禁制アル時ハ格別ナリトス  
契約ヲ以テ定メタル息銀ノ割合ハ證書ヲ以  
テ之ヲ定ムヘシ

一九〇八

第九百二十六條 息銀ノトヲ別段附記セサル  
元資ノ受取書アルキハ借主既ニ息銀ヲモ拂  
ノタルト思料スヘクシテ其息銀ヲ拂フヘキ  
義務ノ解除ヲ受クヘシ

一九〇九

第九百二十七條 一方ノ者ヨリ他ノ一方ノ者  
ニ元資ヲ貸渡シ之ヲ取戻ストナク唯其息銀  
ノミヲ得ヘキノ契約ヲ為ストヲ得ヘシ  
此類ノ貸借ヲ名ケテ年金ト云フ

一九一〇

第九百二十八條 其年金ニ二種アリ一ハ無期  
ノ年金又一ハ生涯ノ年金ナリ

一九一一

第九百二十九條 無期ノ年金ハ借主其元資ヲ返  
シ得ヘキモノトス

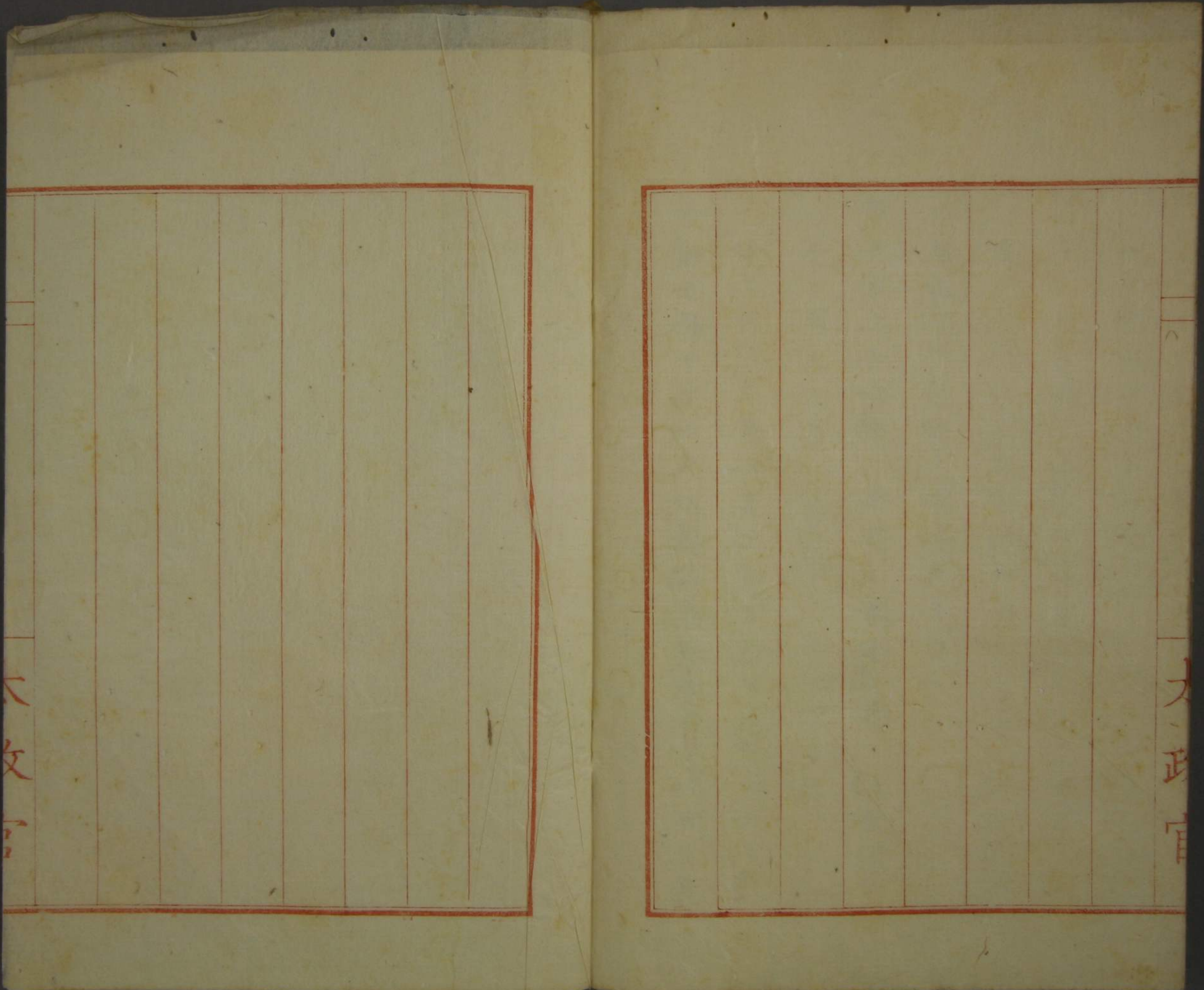
若シ借主其元資ヲ返サントスルニ於テ其時ヨリ幾日前ニ之ヲ告知スヘキヤヲ貸主ト協議シタルキハ其告知ヲ為シタル上ニ非サレハ其元資ヲ返スヲ得ス

第九百三十條 無期ノ年金ヲ拂フヘキ者二年ノ間之ヲ拂ハサルキハ其元資ヲ返サシムルヲ得ヘシ

第九百三十一條 無期ノ年金ヲ拂フ可キ者家

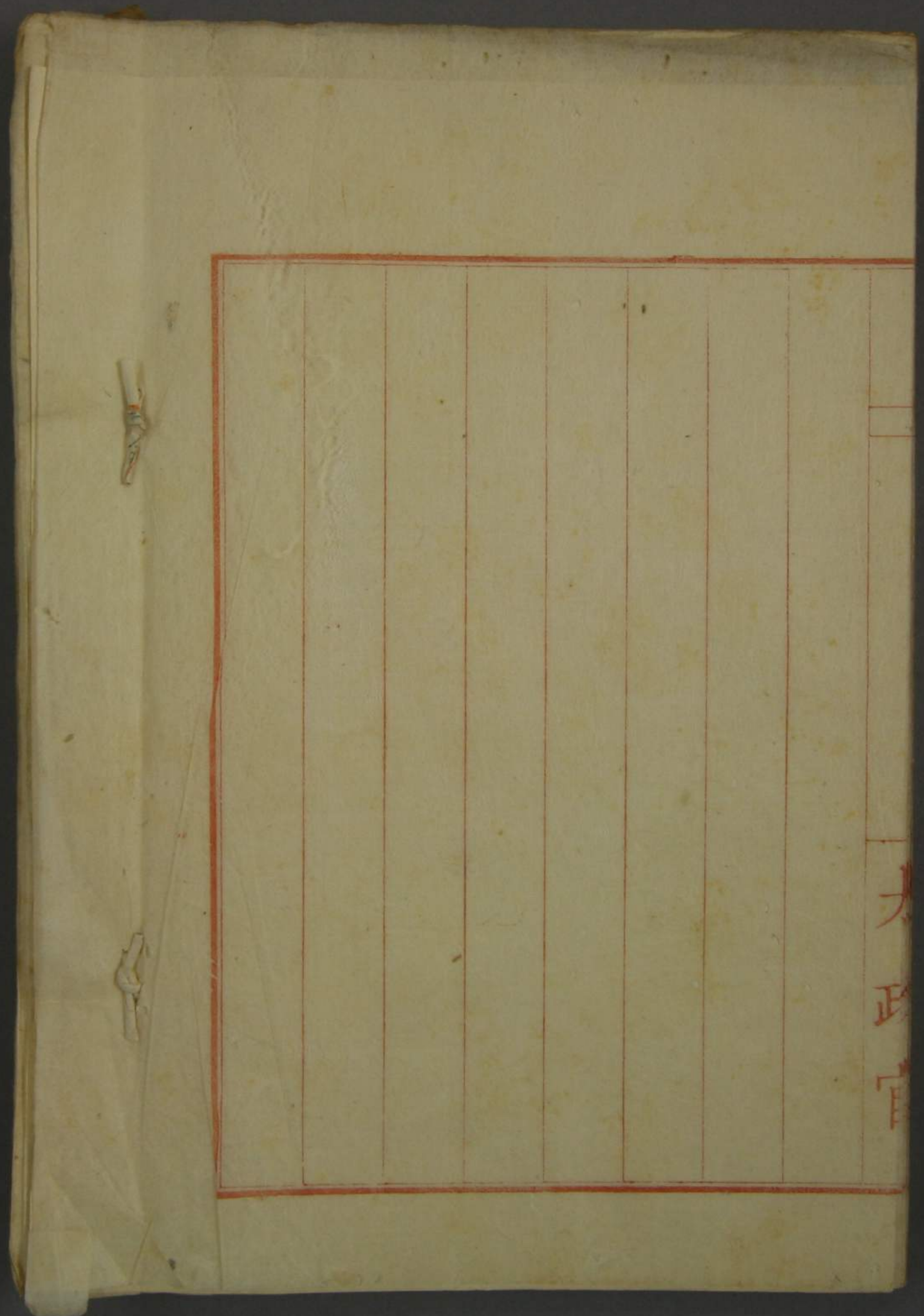
資分散ヲ為シ又ハ其産業衰敗シタルキハ年金ヲ得可キ者亦其元資ヲ返サシムルヲ得ヘシ

第九百三十二條 生涯ノ年金規則ハ偶生ノ一ニ管スル契約ノ部ニ之ヲ定ム



大政官

大政官



大政官